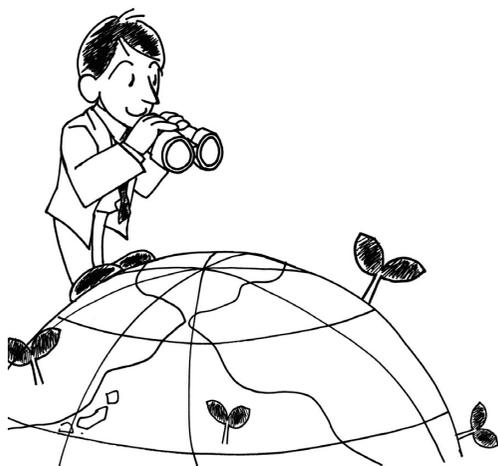


# セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド

追加型投信/内外/資産複合



## 交付運用報告書

第14期（決算日 2020年12月10日）

（作成対象期間 2019年12月11日～2020年12月10日）

第14期末(2020年12月10日)	
基準価額	16,651円
純資産総額	230,238百万円
第14期	
騰落率	9.1%
分配金(税込)合計	－円

- ・騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入しております。
- ・純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。

<閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンドの紹介」⇒「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」⇒「運用状況・レポート」⇒「運用報告書」

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者の皆さまへ

平素は「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第14期決算を行いましたので、当期の運用状況をご報告いたします。

当ファンドは、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。当期間も変わらず、この方針に基づき運用を行って参りましたことを合わせてご報告申し上げます。

今後も、皆さまの長期資産形成のお役に立てるよう、引き続き努めて参りますので、より一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



## セゾン投信

### ■お問い合わせ先

セゾン投信株式会社 お客さま窓口  
〒170-6048 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 48F  
【ホームページ】 <https://www.saison-am.co.jp>  
【電話番号】 03-3988-8668  
【営業時間】 9:00～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

## ごあいさつ

当ファンドの第14期は、2020年初旬から地球レベルでの蔓延が始まった新型コロナウイルス感染症に対する市場の反応が、2月から3月にかけて悲観の極に至り、一方で程なく楽観へと急旋回したことによって基準価額はリーマンショック時を超える短期的な大幅下落と、以降の右肩上がり回復相場の両面を経験して大きく上下しましたが、年間を通じた運用実績は良好な結果となり、設定来高値を付けて当期を終えることが出来ました。

中国で最初に確認された新型コロナウイルスは2020年を通じて衰えることなく、瞬く間に世界全体に感染が拡大しました。とりわけ欧米先進諸国での感染規模は甚大で、2020年2月第一波の折に世界のマーケットは突如総悲観に転じ、3月にかけての僅か1か月弱で米ダウ平均は1万ドル超下落して2万ドルを割り込み、日欧及び新興国の株式市場も揃って同様に大幅下落となっており、感染拡大が実体経済の活動収縮懸念を短期間で一気に織り込む前代未聞の激震となったのでした。ところが主要国の対策はリーマンショックの教訓も活かされて迅速かつ大胆で、米欧日揃っての追加金融緩和がマーケットの不安感を払拭して、3月下旬以降は期中を通じて低金利安定下の適温リバウンド相場が続くことになったわけです。

未だコロナ禍は続いています。コロナ以前とは異次元の生活様式がコロナ後も定着するとの前提から、そこに立脚した事業価値を有するデジタル情報通信系企業の業績伸長と共に、マーケットの強烈な将来期待の高まりが株価を劇的に押し上げて、金融緩和による余剰マネーの株式市場流入観測がもたらす買い安心感と相乗して、12月に至り米市場全体で史上最高値を更新し、主要国市場もその勢いに追従する楽観相場が続いたのです。

とは言え、コロナ禍による経済の落ち込みは言わば人為的な、或いは超常識的政策によって下支えされた状態で、コロナ終息後の完全回復までには数年を要することは必定であって、先進主要国の金融緩和とゼロ金利はその時期まで継続するであろうことも想定内です。従って、金利が消滅した状態の債券市場も暫くは安定基調を保ち、更なるマイナス金利深堀りもあり得るとすると、グローバルバランス型ポートフォリオは引き続き価格変動リスクへの安定機能を果たして行けそうです。主要国の政策総動員で押し上がった世界の株式市場ですが、過熱感そして割高感の台頭も否めず、この先大きな調整局面もあり得ることですが、コロナ後の世界経済はやはり長期的成長軌道を、ニューノーマルと呼ばれる新たな産業文化と社会生活を新たな成長の源泉として、より鮮やかに描き続けるはず。そうした地球経済の有する普遍的営みが導き出す資金循環を素直に取り込んで、合理的資産育成を図るのが当該ファンドの運用理念の大前提です。

さて、前例のない短期間で大きな値動きだった第14期ですが、当ファンドの当期末純資産残高は期初から360億円増加して2,302億円となり、日本を代表するグローバルバランス型の長期投資ファンドとして成長を続けております。長距離列車「セゾン号」乗客の皆さまには、長期投資の旅を続けていただいていることに乗務員一同感謝申し上げますと共に、第14期の運用状況を報告させていただきます。

代表取締役会長CEO 中野 晴啓

## 運用担当者の紹介

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンドは、ファンド・オブ・ファンズの仕組みを活用して、世界の優れたリソースを活用しながら、日本の生活者の方の長期の資産形成に資することができるよう、不確実な市場の予想に頼ることなく、長期的なリターンと幅広い分散によるリスクの軽減を重視して、チームで運用を行っています。

代表取締役会長CEO、CIO (チーフインベストメントオフィサー)

### 中野 晴啓

#### 主な役割

運用の基本的な方向性の指示

運用経験年数 30年

#### 経歴

1987年	明治大学商学部卒業
1987年	株式会社クレディセゾン入社。セゾングループの金融子会社にて債券ポートフォリオを中心に資金運用業務に従事した後、投資顧問事業を立ち上げ運用責任者としてグループ資金の運用のほか外国籍投資信託をはじめとした海外契約資産等の運用アドバイスを手がける。その後、2006年セゾン投信を設立。2007年4月から代表取締役社長(CEO)。2020年6月より現職。



運用部長、ポートフォリオマネジャー

### 瀬下 哲雄

#### 主な役割

投資戦略の策定、具体的投資方針の策定

運用経験年数 14年

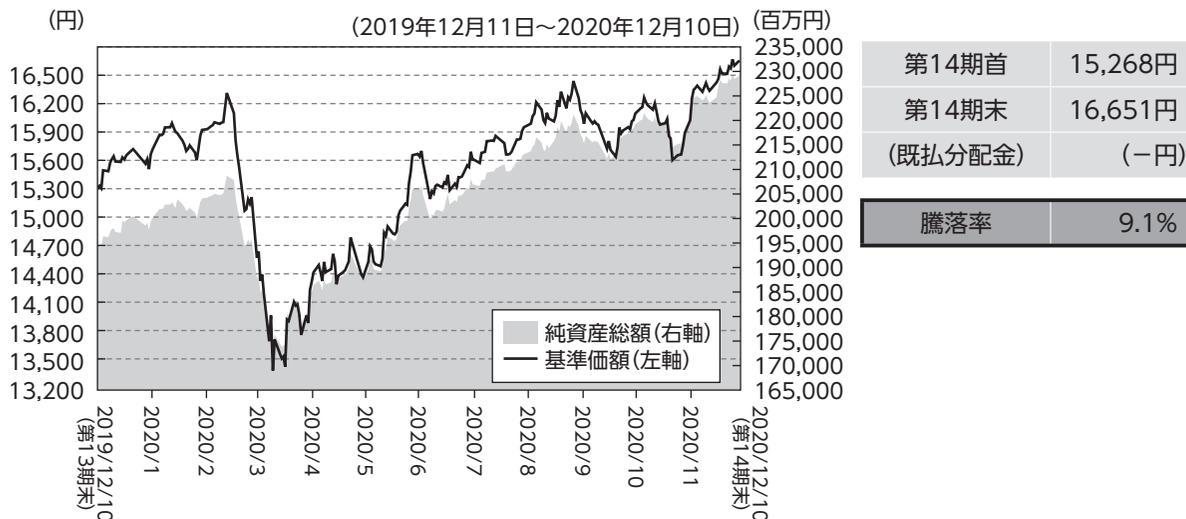
#### 経歴

1996年	上智大学経済学部経営学科卒業
2006年	セゾン投信入社、2007年3月のファンド設定時より運用を担当し、2011年よりポートフォリオマネジャー、2014年から現職。



## 運用経過の説明

## 期中の基準価額等の推移



- ・当ファンドには、ベンチマークはありません。
- ・分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- ・表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- ・上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

**ここをCHECK!**

## 【基準価額の主な変動要因】

当期は、株式に投資するファンドが欧州に投資するものを除いて上昇し、債券に投資するファンドが日本に投資するものを除いて上昇したほか、リバランスによるプラスの効果があり、投資先ファンドが基準価額の上昇要因となりました。為替は、対ユーロで円安となりましたが、対ドルでは円高となり、基準価額の上落要因となりました。

## &lt; 基準価額のプラス要因 &gt;

バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
対ユーロでの為替レート 【円安】
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (円)
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・パシフィック・エクス・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)

期中騰落率  
9.1%

対ドルでの為替レート 【円高】
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (円)

## &lt; 基準価額のマイナス要因 &gt;

## 1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2019年12月11日~2020年12月10日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	78円 (43) (30)  (6)	0.506% (0.277) (0.192)  (0.037)	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ・委託した資金の運用の対価 ・交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 ・運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用  (監査費用)  (その他)	0  (0)  (0)	0.001  (0.001)  (0.000)	(b) その他費用= $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・移転等に要する費用
合 計	78	0.507	
期中の平均基準価額は15,467円です。			

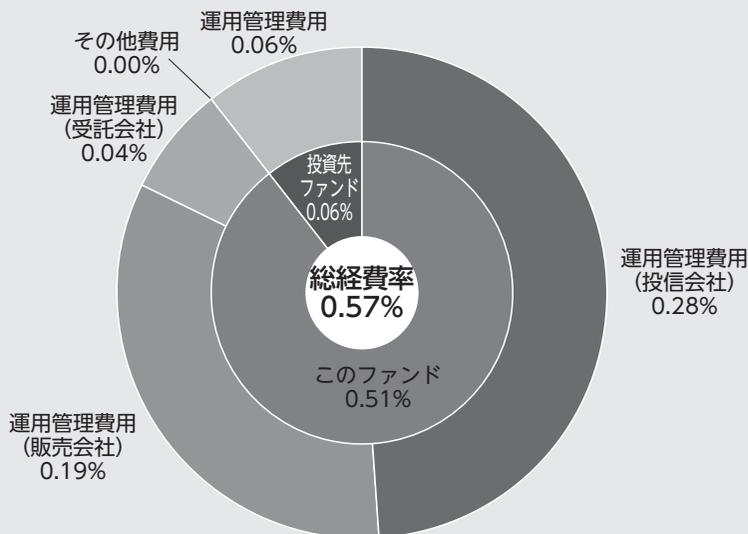
- ・期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- ・財産維持手数料は当期は発生しておりません。
- ・各金額は各項目ごとに円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

**ここをCHECK!**

&lt;参考情報&gt;

**総経費率**

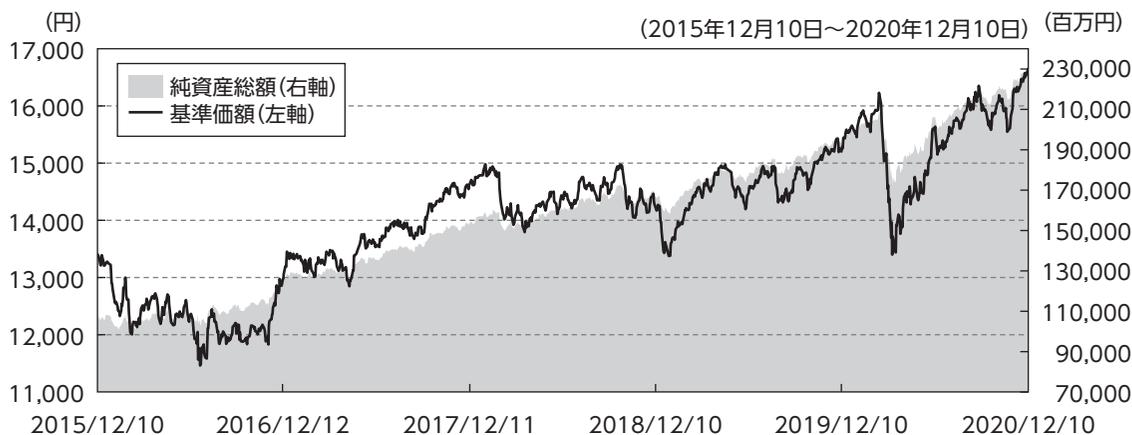
当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.57%です。



総経費率(①+②)	0.57%
①このファンドの費用の比率	0.51%
②投資先ファンドの経費率(運用管理費用以外の費用を含む)	0.06%

- ・①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- ・②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。
- ・各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- ・各比率は、年率換算した値です。小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
- ・①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- ・上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



	2015年12月10日 決算日	2016年12月12日 決算日	2017年12月11日 決算日	2018年12月10日 決算日	2019年12月10日 決算日	2020年12月10日 決算日
基準価額 (円)	13,406	13,181	14,667	14,200	15,268	16,651
期間分配金合計(税込) (円)	-	-	-	-	-	-
基準価額の騰落率 (%)	△1.1	△1.7	11.3	△3.2	7.5	9.1
参考指数の騰落率 (%)	△0.4	0.4	11.4	△2.6	8.3	8.7
純資産総額 (百万円)	107,188	126,394	153,979	166,494	194,260	230,238

- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額の反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。
- ・上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。
- ・純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

## 👉 ここをCHECK!

### <参考情報>

当期末(2020年12月10日)と5年前(2015年12月10日)の比較は以下のとおりです。

基準価額の騰落率(5年)	24.2%
参考指数の騰落率(5年)	28.1%
純資産額の増加額(5年)	123,049百万円

・騰落率は年率換算していません。

## 投資環境

### 【株式市場の概況】

株式市場は欧州の一部の国などを除いて上昇し、特に米国と新興国が大きく上昇しました。

2019年12月は、金融緩和の長期化が見込まれるなかで、米国と中国の貿易を巡る対立が解消に向かうことへの期待が高まり上昇基調となったものの、1月は米国とイランの間で軍事的な緊張が高まったことや中国で新型コロナウイルスの感染拡大が確認されたことを受けてやや軟調に推移しました。2月後半から3月にかけては、中国以外でも新型コロナウイルスの感染拡大が確認され、経済活動の大幅な落ち込みや金融市場の混乱への警戒が高まって一段と下落しました。しかし、3月中旬以降は主要国・地域の中央銀行が協調して金融緩和策を打ち出したことや各国政府が大規模な景気支援策を打ち出したことを受けて、落ち着きを取り戻して反発に転じました。

4月以降は、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでも、ワクチン開発への期待や政府の景気支援策による経済活動の早期回復期待が高まったことを背景に先行きに対する悲観的な見方が後退したほか、金融緩和環境が長期間維持されるとの見方が一段と強まったことを受けて、新型コロナウイルスの感染拡大に対応した新しい生活様式による恩恵を受ける企業を中心に8月まで上昇基調となりました。

9月から10月にかけては、欧州を中心に新型コロナウイルスの感染が再び拡大して軟調に推移したものの、11月以降はワクチンの早期実用化への期待が一段と高まったほか、米国の大統領選挙で同盟国との協調を重視するバイデン氏が勝利し、政治的な不透明感が後退したことを受けて上昇しました。

### 【国債市場の概況】

国債市場は、米国とユーロ圏が上昇し、日本が小幅に下落しました。

2019年12月は米国と中国の貿易を巡る対立が深刻化することへの懸念が和らいでやや軟調な展開となりましたが、1月には中国で新型コロナウイルスの感染拡大が確認されたことを受けて安全資産としての需要が高まって上昇し、2月には中国以外でも新型コロナウイルスの感染拡大が確認されたことを受けて一段と上昇しました。

3月に入ってから米連邦準備制度理事会(FRB)が緊急の政策金利の引き下げを行ったことを受けて米国を中心に上昇し、その後は各国政府が大規模な景気支援策を打ち出し、資金を調達するために国債の発行が拡大することへの警戒が強まって下落する局面はあったものの、3月中旬に主要国・地域の中央銀行が協調して金融緩和策を打ち出したことを受けて反発に転じました。

4月以降は、景気支援策の資金を調達するために国債の発行拡大が見込まれるなかでも、ユーロ圏は欧州中央銀行(ECB)が金融緩和の拡大策を打ち出したことを受けて上昇し、米国は金融緩和の長期化観測が強まったことを受けて堅調に推移しました。一方、日本は日本銀行が既に大規模な金融緩和策を長期間実施していて、国債の買い入れ金額の拡大余地が限られることからやや軟調に推移しました。

### 【為替市場の概況】

ドルは、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の低迷に対応するために、3月に米連邦準備制度理事会(FRB)が政策金利を複数回引き下げて事実上のゼロ金利政策を復活させ、その後も金融緩和策が長期間維持されるとの見方が広がったことから、下落基調となりました。

ユーロは、米国が政策金利の引き下げを行ったことを受けてドルとの金利差が縮小するなかで、7月に欧州連合(EU)首脳が経済活動の立て直しを目的とした欧州復興基金の設立で合意したことを受けて共通通貨であるユーロに対する信頼が強まって上昇しました。

円は、日本銀行が既に大規模な金融緩和策を長期間実施していて金融緩和の拡大余地が限られるなかで追加の金融緩和策の規模が相対的に小さかったことを背景に底堅く推移し、対ドルで円高、対ユーロで円安となりました。

## 当ファンドの運用経過と結果

当期は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて金融市場が大きく変動する局面がありましたが投資方針を変更することなく、引き続き積立などのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して定められた投資比率に従って各ファンドへの投資を行い、株式と債券の比率が目標から乖離した局面では、比率が上昇したファンドを売却し、比率が低下したファンドを購入することにより、リバランスを行いました。今期は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて株式市場が大きく下落した2月から3月にかけて債券ファンドの売却と株式ファンドの購入によるリバランスを行ったほかは、主に債券ファンドの購入および株式ファンドの売却と債券ファンドの購入によるリバランスを行い、期中の購入から売却を差し引いた純投資額は、債券ファンドが株式ファンドを大きく上回りました。なお、期中の資産配分比率に大きな変動はありません。

### ここをCHECK!

#### <参考情報>

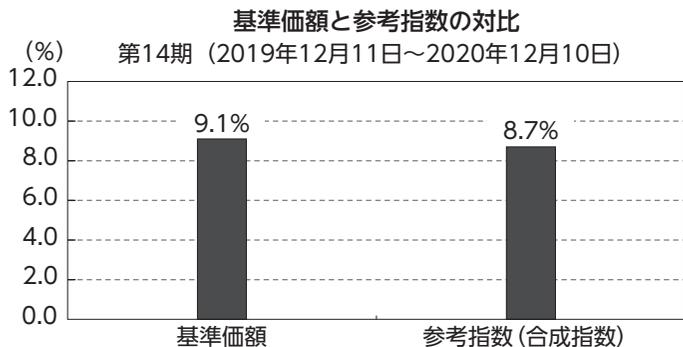
期中の売買及び取引の状況（2019年12月11日から2020年12月10日）

投資証券			買付		売付	
			口数	金額	口数	金額
外 国	アメリカ	バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド	千口	千米ドル	千口	千米ドル
			398	102,022	219	63,300
		バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口	千円	千口	千円
			84	1,070,000	55	820,000
		バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	千口	千円	千口	千円
			285	3,130,000	133	1,480,000
	アイルランド	バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口	千米ドル	千口	千米ドル
			48	5,000	40	4,800
		バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	千口	千ユーロ	千口	千ユーロ
			192	20,200	66	8,000
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	千口	千ユーロ	千口	千ユーロ		
	891	111,000	604	74,700		
	バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	千口	千ユーロ	千口	千ユーロ	
		257	30,000	227	31,300	
	バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	千口	千ユーロ	千口	千ユーロ	
		713	90,900	286	36,800	

- ・金額は受渡し代金です。
- ・千単位未満を切り捨てて表示しております。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の当期の騰落率の対比です。



- 当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス (配当込) とブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- 参考指数は、基準価額への反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

## 分配金

基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第14期
	2019年12月11日～2020年12月10日
当期分配金	-
(対基準価額比率)	-
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	8,271

- 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

---

定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。原則として積立などでのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して、目標とする投資比率に沿うように各ファンドへの投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整を行います。

運用部長 瀬下 哲雄

## お知らせ

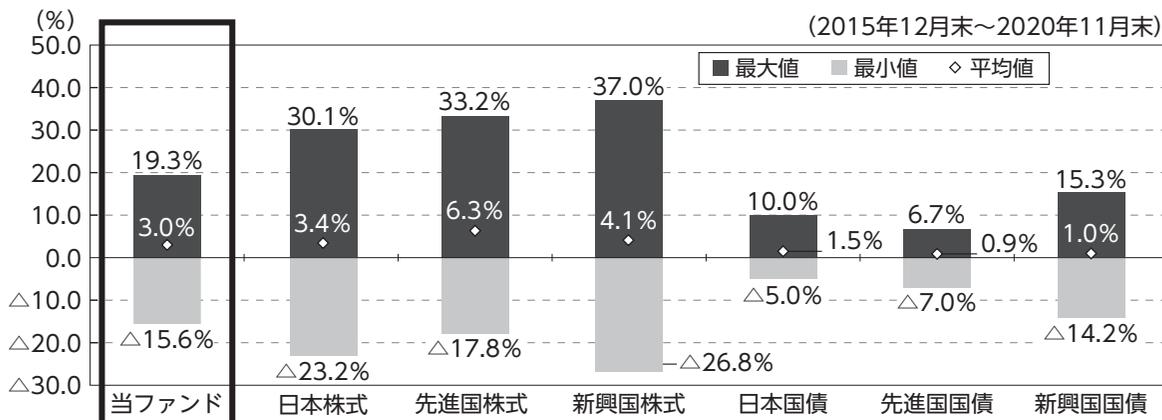
---

該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	<p>信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、主として米国バンガード社が運用するインデックスファンドの中から資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに分散投資します。具体的な資産配分は運用状況ならびに市場状況に応じて随時変更(増減ならびに入替など)します。</p> <p>原則として、為替ヘッジは行いません。</p>
主 要 投 資 対 象	有価証券に投資する外国投資証券を投資対象とします。
運 用 方 法	<p>当ファンドの運用は、ファンド・オブ・ファンズ方式とし、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。</p> <p>株式と債券の基本資産配分比率は、原則として株式50%、債券50%とします。</p> <p>株式、債券の地域別配分比率は、それぞれの市場時価総額(規模)を勘案して行います。</p>
分 配 方 針	<p>毎決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象が少額の場合には分配を行わないこともあります。</p> <p>信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p> <p>当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、税金を差し引いた後、再投資されます。</p>

## (参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- ・上記の騰落率は、直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり決算日に対応した数字とは異なります。

## 《各資産クラスの指数》

日本株式：MSCI ジャパン・インデックス(配当込)  
 先進国株式：MSCI ワールド・インデックス(配当込)  
 新興国株式：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込)  
 日本国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：日本インデックス  
 先進国国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：G7インデックス  
 新興国国債：ブルームバーグ・バークレイズ新興市場自国通貨建て国債インデックス

- ・全ての指数は米ドル建てのものをわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

- ・MSCIジャパン・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、日本の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIオールカンントリー・ワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国および新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ブルームバーグ®(BLOOMBERG®)はブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)の商標およびサービスマークです。バークレイズ®(BARCLAYS®)は、ライセンスの下で使用されている、バークレイズ・バンク・ピーエルシー(その関係会社と総称して「バークレイズ」といいます。)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグまたはブルームバーグへのライセンス付与者(バークレイズを含みます。)は、ブルームバーグ・バークレイズ指数に対する一切の専有的権利を有しています。ブルームバーグおよびバークレイズのいずれも、このマテリアルを承認もしくは支持するものではなく、また、このマテリアルに含まれるいかなる情報の正確性もしくは完全性についても保証するものではなく、明示黙示を問わず、このマテリアルから得られる結果に関していかなる保証も行わず、また、法律上認められる最大限度において、ブルームバーグおよびバークレイズのいずれもこのマテリアルに関して生じるいかなる侵害または損害についても何らの責任も債務も負いません。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

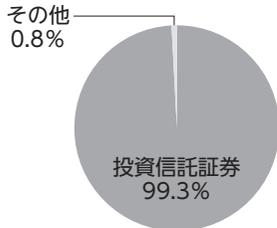
(2020年12月10日現在)

#### ■組入ファンド

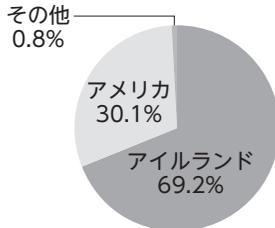
	第14期末(2020年12月10日)
	組入比率
バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド	30.1%
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	24.2%
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	19.3%
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	8.5%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	6.6%
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	5.4%
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	3.6%
バンガード・パシフィック・エクス・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	1.6%
その他(短期金融資産等)	0.8%
組入ファンド数	8銘柄

- ・組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。
- ・詳細は、運用報告書(全体版)に記載しております。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

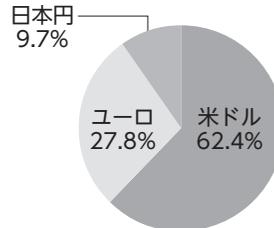
#### ■資産別配分



#### ■国・地域別配分



#### ■通貨別配分



- ・国・地域別配分は、投資しているファンドの発行国を表示しております。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。



### ここをCHECK!

#### 投資対象別に分類した組入資産の状況

##### ■資産別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
株式を中心に投資するファンド	50.3%	5銘柄
債券を中心に投資するファンド	48.9%	3銘柄
その他(短期金融資産等)	0.8%	—
合計	100.0%	8銘柄

##### ■地域別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
米国を中心に投資するファンド	54.3%	2銘柄
欧州を中心に投資するファンド	27.8%	2銘柄
日本を中心に投資するファンド	9.0%	2銘柄
太平洋(日本を除く)を中心に投資するファンド	1.6%	1銘柄
新興国を中心に投資するファンド	6.6%	1銘柄
その他(短期金融資産等)	0.8%	—
合計	100.0%	8銘柄

- ・詳細は、「組入ファンドの概要」をご参照ください。
- ・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

## 純資産等

項 目	第14期末
	2020年12月10日
純 資 産 総 額	230,238,575,657円
受 益 権 総 口 数	138,276,342,456口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	16,651円

・期中における追加設定元本額は23,090,155,278円、同解約元本額は12,046,219,796円です。


**ここをCHECK!**

- ・第14期における金額ベースの追加設定額は35,604,994,882円、同一部解約額は18,516,472,812円です。結果、第14期は差し引き17,088,522,070円の資金流入となりました。
- ・純資産等の前期末の状況は以下のとおりです。

項 目	第13期末
	2019年12月10日
純 資 産 総 額	194,260,343,488円
受 益 権 総 口 数	127,232,406,974口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	15,268円

## 組入ファンドの概要

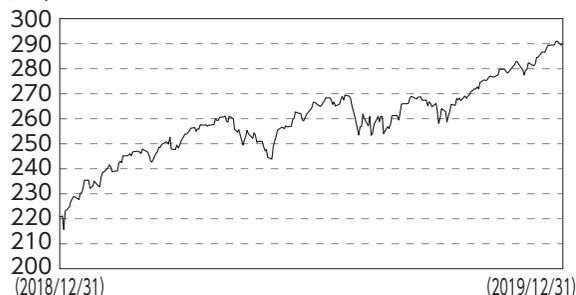
以下は当ファンドが投資対象としているバンガード社のファンドの現況です。詳細な内容につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

なお、以下の各項目の注記につきましては、21頁をご参照ください。

### 1. バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド

#### ■基準価額の推移

(米ドル)



・グラフは分配金再投資基準価額です。

#### ■費用明細

(2019年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.02

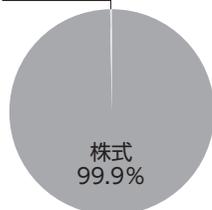
#### ■組入上位10銘柄

(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	Apple Inc.	アメリカ	情報技術	4.6
2	Microsoft Corp.	アメリカ	情報技術	4.5
3	Alphabet Inc.	アメリカ	コミュニケーション・サービス	3.0
4	Amazon.com Inc.	アメリカ	一般消費財・サービス	2.9
5	Facebook Inc.	アメリカ	コミュニケーション・サービス	1.8
6	Berkshire Hathaway Inc.	アメリカ	金融	1.7
7	JPMorgan Chase & Co.	アメリカ	金融	1.6
8	Johnson & Johnson	アメリカ	ヘルスケア	1.4
9	Visa Inc.	アメリカ	情報技術	1.2
10	Procter & Gamble Co.	アメリカ	生活必需品	1.2
組入銘柄数			507銘柄	

#### ■資産別配分

現金等  
0.1%

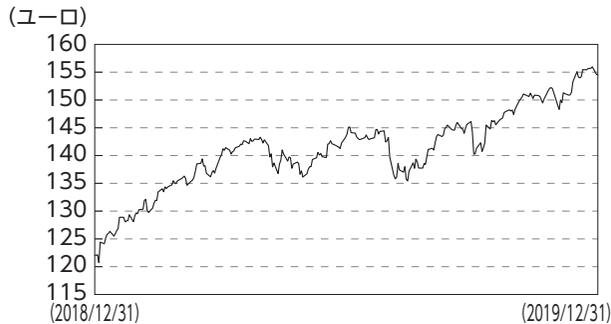


#### ■国・地域別配分



## 2. バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

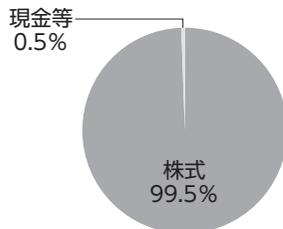
ファンド財産維持手数料率		運用管理费率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.08

## ■組入上位10銘柄

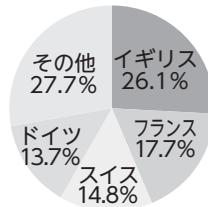
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	Nestle SA	スイス	生活必需品	3.4
2	Royal Dutch Shell plc	オランダ	エネルギー	2.5
3	Roche Holding AG	スイス	ヘルスケア	2.4
4	Novartis AG	スイス	ヘルスケア	2.2
5	HSBC Holdings plc	イギリス	金融	1.7
6	Unilever	オランダ・イギリス	生活必需品	1.6
7	SAP SE	ドイツ	情報技術	1.4
8	TOTAL SA	フランス	エネルギー	1.4
9	AstraZeneca plc	イギリス	ヘルスケア	1.4
10	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	フランス	一般消費財・サービス	1.4
	組入銘柄数	454銘柄		

## ■資産別配分

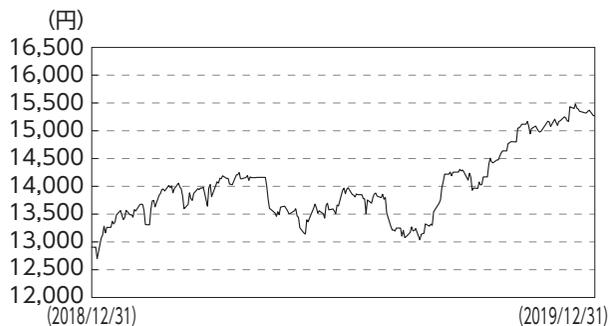


## ■国・地域別配分



## 3. バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

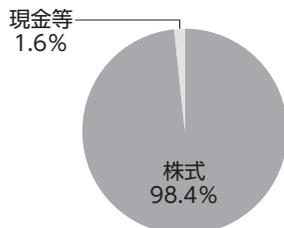
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

## ■組入上位10銘柄

(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	トヨタ自動車	日本	一般消費財・サービス	4.4
2	ソニー	日本	一般消費財・サービス	2.3
3	ソフトバンクグループ	日本	コミュニケーション・サービス	1.9
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	金融	1.8
5	キーエンス	日本	情報技術	1.7
6	武田薬品工業	日本	ヘルスケア	1.6
7	KDDI	日本	コミュニケーション・サービス	1.4
8	リクルートホールディングス	日本	資本財・サービス	1.4
9	三井住友フィナンシャルグループ	日本	金融	1.3
10	本田技研工業	日本	一般消費財・サービス	1.3
組入銘柄数		324銘柄		

## ■資産別配分

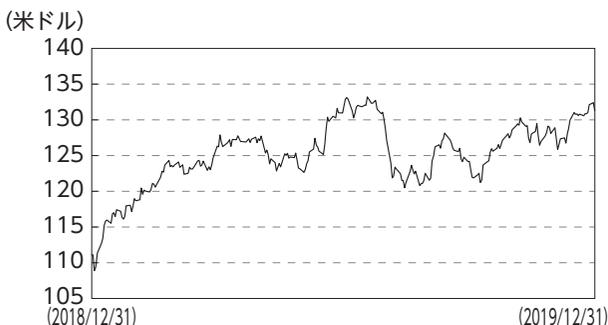


## ■国・地域別配分



## 4. バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

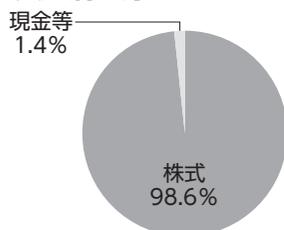
ファンド財産維持手数料率		運用管理费率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

## ■組入上位10銘柄

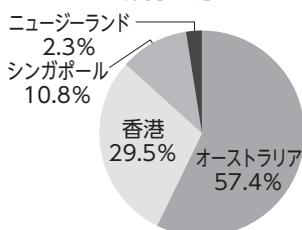
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率 (%)
1	AIA Group Ltd.	香港	金融	7.1
2	Commonwealth Bank of Australia	オーストラリア	金融	5.6
3	CSL Ltd.	オーストラリア	ヘルスケア	4.9
4	BHP Group Ltd.	オーストラリア	素材	4.5
5	Westpac Banking Corp.	オーストラリア	金融	3.3
6	National Australia Bank Ltd.	オーストラリア	金融	2.8
7	Australia & New Zealand Banking Group Ltd.	オーストラリア	金融	2.7
8	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd.	香港	金融	2.2
9	DBS Group Holdings Ltd.	シンガポール	金融	1.9
10	Wesfarmers Ltd.	オーストラリア	一般消費財・サービス	1.8
組入銘柄数			145銘柄	

## ■資産別配分



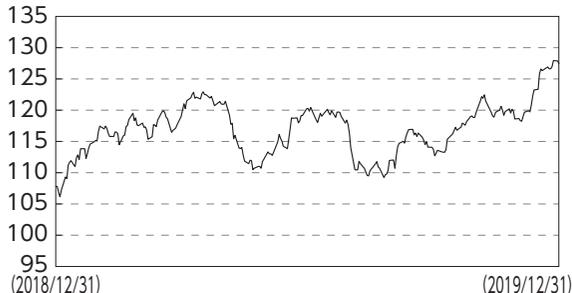
## ■国・地域別配分



## 5. バンガード・エマーシング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(米ドル)



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

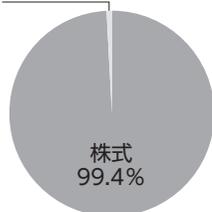
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.16

## ■組入上位10銘柄

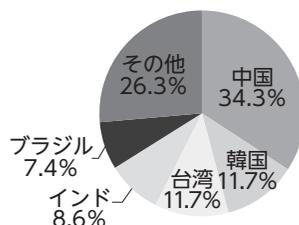
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率 (%)
1	Alibaba Group Holding Ltd.	中国	一般消費財・サービス	5.7
2	Tencent Holdings Ltd.	中国	コミュニケーション・サービス	4.4
3	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	台湾	情報技術	4.3
4	Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	情報技術	4.2
5	China Construction Bank Corp.	中国	金融	1.3
6	Ping An Insurance Group Co. of China Ltd.	中国	金融	1.2
7	Naspers Ltd.	南アフリカ	一般消費財・サービス	1.1
8	Reliance Industries Ltd.	インド	エネルギー	1.0
9	Housing Development Finance Corp. Ltd.	インド	金融	0.9
10	Petroleo Brasileiro SA	ブラジル	エネルギー	0.9
組入銘柄数			1,425銘柄	

## ■資産別配分

現金等  
0.6%

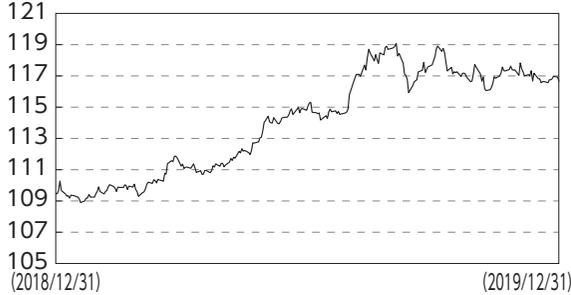
## ■国・地域別配分



## 6. バンガード・U.S.ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(米ドル)



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

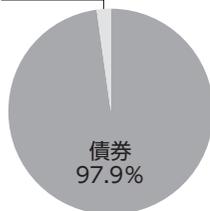
ファンド財産維持手数料率		運用管理费率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■組入上位10銘柄

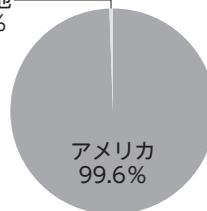
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.375	2024/8/15	0.93
2	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.375	2029/5/15	0.88
3	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.875	2028/5/15	0.86
4	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.000	2022/11/30	0.85
5	WI TREASURY SECURITY	アメリカ	国債証券	2.625	2029/2/15	0.84
6	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.875	2028/8/15	0.79
7	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.000	2025/2/15	0.79
8	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	1.625	2029/8/15	0.78
9	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	3.125	2028/11/15	0.78
10	US TREASURY NOTE	アメリカ	国債証券	2.500	2024/5/15	0.76
組入銘柄数			336銘柄			

## ■資産別配分

現金等  
2.1%

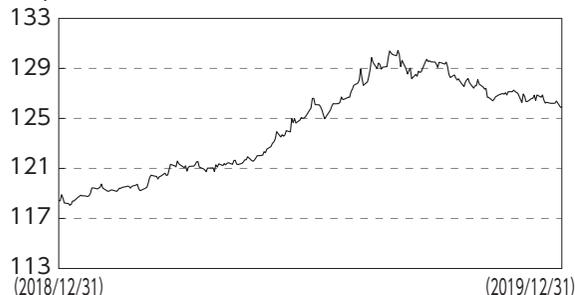
## ■国・地域別配分

その他  
0.4%

## 7. バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移

(ユーロ)



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

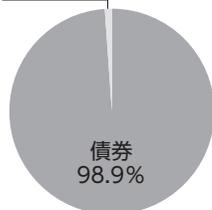
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■組入上位10銘柄

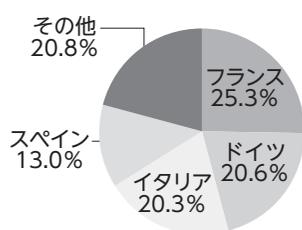
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	3.000	2029/8/1	1.24
2	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	2.050	2027/8/1	1.24
3	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	2.450	2023/10/1	1.16
4	KINGDOM OF SPAIN BOND	スペイン	国債証券	0.350	2023/7/30	1.15
5	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	0.750	2028/11/25	1.12
6	REPUBLIC OF ITALY BOND	イタリア	国債証券	3.350	2035/3/1	0.98
7	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	1.000	2027/5/25	0.97
8	FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY BOND	ドイツ	国債証券	0.500	2027/8/15	0.91
9	FRENCH REPUBLIC BOND	フランス	国債証券	1.000	2025/11/25	0.89
10	KINGDOM OF SPAIN BOND	スペイン	国債証券	1.450	2029/4/30	0.86
組入銘柄数			807銘柄			

## ■資産別配分

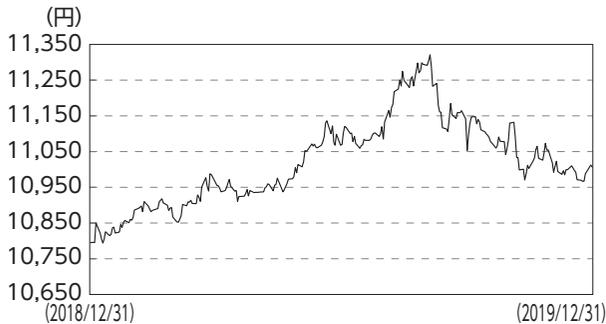
現金等  
1.1%

## ■国・地域別配分



## 8. バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

## ■基準価額の推移



## ■費用明細

(2019年12月31日現在)

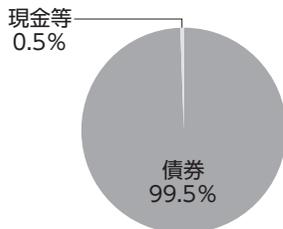
ファンド財産維持手数料率		運用管理费率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

## ■組入上位10銘柄

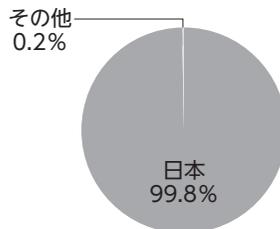
(2019年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率(%)	償還年月日	投資比率(%)
1	第325回利付国債(10年)	日本	国債証券	0.800	2022/9/20	1.42
2	第356回利付国債(10年)	日本	国債証券	0.100	2029/9/20	1.37
3	第405回利付国債(2年)	日本	国債証券	0.100	2021/10/1	1.17
4	第140回利付国債(5年)	日本	国債証券	0.100	2024/6/20	1.09
5	第354回利付国債(10年)	日本	国債証券	0.100	2029/3/20	1.08
6	第129回利付国債(5年)	日本	国債証券	0.100	2021/9/20	1.07
7	第329回利付国債(10年)	日本	国債証券	0.800	2023/6/20	1.04
8	第355回利付国債(10年)	日本	国債証券	0.100	2029/6/20	1.02
9	第401回利付国債(2年)	日本	国債証券	0.100	2021/6/1	0.99
10	第123回利付国債(20年)	日本	国債証券	2.100	2030/12/20	0.98
組入銘柄数		323銘柄				

## ■資産別配分



## ■国・地域別配分



## -第14期-

- ・作成時点において、入手可能な各ファンドの直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。
- ・費用明細に記載されている運用管理費率とは、平均純資産総額に対する運用及び管理等にかかる費用の総額の比率を示したものです。
- ・投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率です。
- ・資産別配分は、ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国・地域別配分は、ファンドの投資資産に対する比率です。
- ・通貨別配分については、開示されていないため記載しておりません。
- ・株式の業種は、世界産業分類基準(GICS)による分類です。

[Vanguard] (日本語での「バンガード」を含む) および [tall ship logo] 商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社および承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. および Vanguard Investments Japan Ltd. より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。従って、The Vanguard Group, Inc. および Vanguard Investments Japan Ltd. は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

本書では、各投資対象ファンドを以下の通りに省略して記載することがありますのでご了承ください。

バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド	→ インスティテューショナル
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	→ ヨーロッパ・ストック
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ストック
バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ パシフィック・エックスジャパン・ストック
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	→ エマージング・マーケット・ストック
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ U.S.・ガバメント・ボンド
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ユーロ・ガバメント・ボンド
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ガバメント・ボンド

## TOPICS：《当社の直接販売の状況 第14期（2019年12月11日～2020年12月10日）》

## ○ 当期のふりかえり

2020年 2月	純資産総額（直販と販売会社の合計）3,000億円を突破
7月	「定期換金サービス ～セゾン定期便～」を開始
12月	純資産総額（直販と販売会社の合計）3,500億円を突破

## ○ 2020年12月10日現在 お客さま口座数 148,706件(前期末比+3.4%)

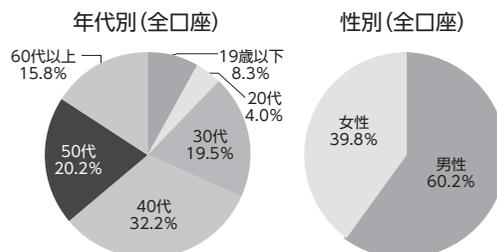
当期間でお客さまは4,855名増え、前期間と同程度の増加数になりました。また「つみたてNISA」は26,138名(当期間で4,006件増)、「ジュニアNISA」は5,072名(当期間で919件増)のお客さまに制度をご活用いただいています。

(前期末のお客さま口座数143,851件、前期間の口座増加数+4,742件)

## ○ お客さまの特徴

年代別の構成は「資産形成層」の30代～40代が半数以上を占めています。

前期との比較では、「19歳以下」、「50代」、「60代以上」の構成比率が増加し、幅広い年代の方に広がりが見られました。



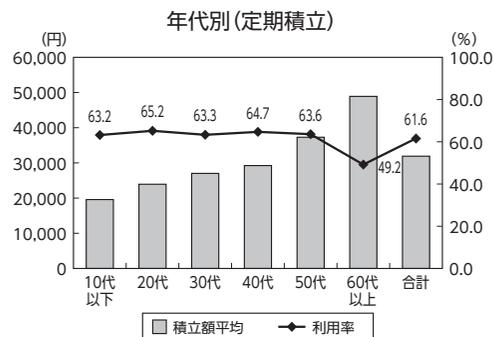
## ○ ファンドの設定・解約の状況

当期間は株式市場の変動が大きく、ファンドの設定・解約がそれぞれ通常時より大きな額となった月もありましたが、純資金流入は毎月継続しました。純資金流入額は189.4億円となり、前期間の金額186.0億円とほぼ同じ水準でした。

## ○ 定期積立プラン

当サービスの全体の利用率は61.6%、60代以上を除き各年代大きな差はなく6割のお客さまがご利用されています。積立額の平均が31,915円と前期間から810円高くなりました。

・定期積立プランは、当社が運用、販売するファンド2種類のいずれか、もしくは両ファンド定期積立サービスをご利用いただいている方を対象としてデータを作成しています。また積立額平均、利用率は2020年12月時点の数値であり、積立額の平均は増額月の増額分の金額を含まない平均値です。



新型コロナウイルス感染拡大防止と従業員の安全確保の観点から、お客さま窓口の時間短縮・WEBでの各種手続き等をお願いしておりますが、当社が行う対応につきまして、皆さまのご理解・ご協力を改めて深く感謝申し上げます。

当期間も定期換金サービス、LINE公式アカウントの開設、オンラインセミナーの定期開催等、お客さまの長期投資に役立つ情報の配信、サービス開発に取り組んでおります。これからも投資家の皆さまと共に長期で成長を目指す会社として、誠実なサービスのご提供に努めてまいります。

※お客さまの特徴や口座、金額は、保有しているファンドの種類や有無に関係なく、当社に口座を開設していただいている直接販売のお客さまを集計したものととなります。

※金額は、明記されたものを除き当社が運用、販売するファンド2種類を合計した数値となっています。